

アライグマの被害とその対策

熊本県立宇土高等学校

要旨

近年、野生動物による住居や農作物の被害が増えている。とくに、特定外来生物に指定されているアライグマによる被害は急速に全国で増えている。今回調査したところ、アライグマは熊本県内でも確認数が増え、生息地域が拡大しており、宇土市でも昨年度から確認されるようになったことがわかった。害獣だとしても生き物を駆除することしかできない現状に疑問をもった我々は、駆除ではなく侵入防止などの対策を重点的に行うこと、アライグマを捕獲し、地道に避妊手術を行うことでアライグマを駆除せずに減少させることができるのではないかと考えた。

1. 目的

永吉先生が宇土高校のグラウンドでアライグマらしきものを見たというお話を聞いて、アライグマについて調べていると、全国でアライグマの被害が増えていることがわかった。現在、被害を防ぐために駆除が進められているが、イノシシなどのようにジビエとして活用することが難しい。そこで、アライグマを駆除せずに人間と共存する方法がないのかを考えたいと思う。

2. 方法

インターネットでアライグマについての情報を調べることで、ここ数年の状況を知り、宇土市におけるアライグマの被害情報を宇土市役所農林水産課の方に尋ねる。そして、人間とアライグマが共存する方法を考える。

3. 結果

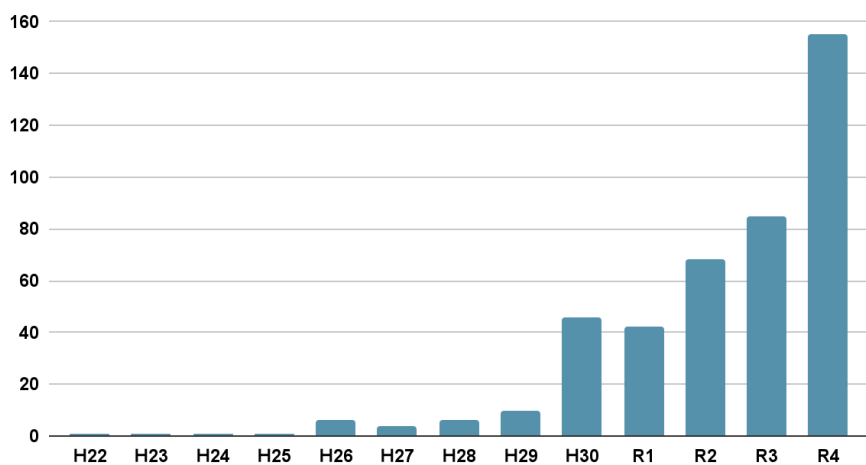
(1)アライグマについて

- ・食肉目アライグマ科
- ・北アメリカ原産
- ・森林、湿地帯から都市部まで幅広い環境に住むことができる
- ・頭胴長41~60cm、尾長20~41cm、体重4~10kg
- ・雑食性・夜行性
- ・手先が器用、学習能力が高い、繁殖力が強い
- ・年に1回、3~6頭の子を産む

アライグマは特定外来生物に指定されているため、外来生物法に基づき、捕獲したアライグマを逃がす、飼育する、譲渡・販売する、生きたまま運搬することは禁止されている。

(2)熊本県のアライグマ生息確認の状況

アライグマ生息確認情報一覧(熊本県内)



(3)宇土市のアライグマ被害の状況

- ・宇土市の現状
 - 熊本市等と連携してセンサーカメラによる生息状況の調査を実施しているほか、宇城市と連携してタイワンリスの生息状況の確認用としてセンサーカメラを使っていることが分かった。
- ・目撃情報
 - 昨年度
 - 熊本市との連携事業のセンサーカメラ 4回
 - タイワンリス用のセンサーカメラ 2回
- ・令和元年度から3年度においては、アライグマと確認できた事例はない。

- ・農作物被害については今のところアライグマによるものと確認されたものはない。

4. 考察

今回調べた結果から、アライグマを駆除によって数を減らすことは難しいと考えた。アライグマは、繁殖力が非常に強いいため、駆除しても駆除しても元の状態に戻ってしまう。むやみに命を奪うことになるのは人間にもアライグマにも悪影響である。そこで、私達がアライグマと共存する方法を2つ考えた。
1つ目は、駆除ではなく、対策に力を入れることである。アライグマは駆除しても数が減ることはない。命を奪う駆除業者にお金をかけるよりも家への侵入を防ぐために各家庭の屋根裏や通気孔を塞ぐことにお金をかけるほうが良いと思う。
2つ目は、アライグマを捕獲し、避妊手術を行うことである。アライグマの子供が生まれなければ、数が増えることはなく自然と数が減っていくのではないかと考える。もちろん、避妊手術にはお金がかかるが、確実に数を減らすことの方が大事である。

5. 感想

今回、アライグマの被害について調べてみて、予想以上に熊本県に生息していることが分かり、驚いた。アライグマなどの外来生物は人間の都合によって輸入されたものがあり、その生き物自体には罪はない。問題なのは人間が、その動物の生態や、歴史を調べずに目先の利益だけを考えて動物を国内に入れてしまうこと、ペットとして飼うことの責任を果たさない人がいることだと思った。また、今回の調査を通して、他の野生動物の農作物や人への被害に対する関心が高まったので、今後はそれについても考えていきたい。

6. 参考文献

- [アライグマにご注意ください / 和泉市](#)
- [アライグマ\(特定外来生物\)対策について / 熊本市ホームページ](#)
- [外来種アライグマを駆除しないヨーロッパの合理的精神を見習うべし](#)
- [アライグマ生息確認情報一覧\(熊本県内\)](#)
- <https://www.city.kumamoto.jp/hpKiji/>